

月報 2020年 4月30日 No.351

石城山岳会

4月号

# 四方通信

石城山岳会事務局編集

2020年 山スキー合宿（4・5日目）

雪景色の明神山

雲河曾根山をめざして、現燈山手前まで

山行報告 現燈山滑落

永崎の海を見はるかす館山

江名の港を見守る中田山

磐城三十三観音札所と4等三角点の高照山

# 2020年 山スキー合宿

## 4日目 グランデコスキー場

2020.3.2 (月)

秋葉、下山田、馬場、渡辺敏夫、栗崎透、栗崎容子、松本恵理子、山内

午前中はグランデコスキー場で秋葉さんから SAJ 指導者研修会の要点を踏まえたスキー技術の指導をして頂きました。教えて頂いたことをまず頭でイメージして身体を動かそうとするのですが、なかなか思うようにできず四苦八苦。

でも基本から山スキーで必要となる滑り方まで、色々な練習の仕方を取り入れて教えて下さるので、終始楽しい講習でした。

午後からはゴンドラ・リフトと乗り継いでリフト・トップから西大巔へ向かいます。今シーズン初



の山スキーと心躍らせ、いざシールを着けて出発と思ったら、まさかのシールを忘れるという大失態をやらかしてしまいました…。しかも片方だけ!!

滑り止めの代わりになるものはないかと、ゴムバンドを

数本巻き付けてみましたがやはりズルズルと滑ってしまい全然登れず、これは無理だと諦め板を背負いツボ足登山に…。

皆さんをお待たせしている焦りと自分の愚かさに気持ちも身体も汗だくになりました(^\_^;)。亀のように歩みの遅い私を待ちながらの登りになってしまったため、結局、西大巔に行き着かず途中までとなってしまいました。申し訳ございません…。私が追いついた時には食事ができる様に雪のテーブルとイスが作られていて皆でお話をしながらワインを飲んだりして楽しい昼食タイムとなりました。山でワイワイと一緒に食べるごはんはやはり美味しいですね!



## 5日目 箕輪スキー場

2020.3.3 (火)

秋葉、下山田、馬場、渡辺敏夫、栗崎透、栗崎容子、松本



箕輪スキー場でスキーレッスンをして頂き、午後は樹林エリアを滑りました。長い距離ではありませんでしたが、木々の間を滑る時、山スキーの楽しさ



を実感します。整地されていない山の斜面をスムーズに滑り降りることはいまだ出来ませんがグレンデを滑るものとはまた違った楽しさがあります。

私の忘れ物のせいで西大巔からの滑走はできませんでしたが、しっかりスキー講習を受けることができ有意義な2日間を過ごすことができました。ご一緒させていただいた皆様ありがとうございました。

(文責：松本)

# 雪景色の明神山

2020年3月30日(月)

参加者 秋葉、渡辺、下山田、吉田、栗崎透、栗崎容子 計6名

春先の雪がたっぷり降った翌日、田人町に位置する明神山に出かけた。

天気は気持ちのいい青空の広がる快晴。町中にも昨日の雪がたっぷり残っていて、「これは思いがけない雪山歩きができるかも♪」と期待が膨らむ。

半周回できるように間明沢(まんみょうざわ)口に車を一台回しておき、8:00、多禰神社のある表登山口から歩き始めた。

しめ縄のかかった鳥居をくぐり、石段を登るとすぐに多禰神社が現れた。結構大きなお社だ。

屋根にはたっぷりの雪が積もり、樋からは氷柱が伸びていた。

神社を過ぎるとすぐに、7、8基の石碑や馬頭観音が並び、馬の姿が立体的に彫り込まれている石碑は

なかなか躍動感があり、芸術的。

8:15 杉の樹林帯を抜けると展望が一気に開け、周りの山々が見渡せるようになった。快晴の青空と真っ白い積雪の明るさも手伝ってか、解放感が気持ちいい。

杉と共に現れるナラの林は、葉を落とした枝に雪が降り積もり、雪の花を咲かせているようでこれもまたキレイ♪

9:06 「夫婦大杉・中間点」と書かれた、大きな杉が現れた。「まだ半分かぁ」と言ったら「いや、中間って書いてあるけど、もうすぐだから」との先輩方の声に内心ホッ。実際この10分後くらいに杉の木の間から奥宮が見えだした。

9:18 二本の大杉に渡したしめ縄をくぐれば、奥宮の敷地だ。里宮と同じような、華美さはないけれど、社のしめ縄も新しいきれいなものが駆けられ、地元の方たちの関りを感じる。

社の正面を通り過ぎてさらに上に登ると、明神山山頂へと続く尾根。ここには立派な杉の巨木と、同じくらい立派なブナの巨木が待っていてくれた。ホント、いわきの山々は侮れない!!

9:33 そんな大木たちを眺めながら進むとほどなく明神山山頂。立派な山頂標とイスとテーブルのセットが3セット(だったかな?)。この日はたっぷりの積雪付きでしたが(笑)。

山頂到着もそこそこに、「ここまで来たらあっちまで見なきゃダメだ」と言う秋葉さんの誘導で、山頂から50m程西側にある大岩群を見学。「天狗の足跡」と名の付いた足形の岩の窪みがあるのですが、積雪のせいもありあまりよくはわかりません。巨岩の胎内くぐりをして山頂へ戻りました。

9:50~10:20 山頂の椅子をテーブルに、テーブルを椅子にしてランチタイム。吉田さんの手作りケーキと、秋葉さんのブルーチーズとクラッカー、ご馳走様でした~♪

10:20 下山開始。思ったより冷え込まず暖かかったので、融けの入った雪は重めのグズグズ雪。滑りやすい状態ではなかったので(部分的にはありましたが)助かった。

とにかく、地元の方たちが輪番制で手入れをされているという参拝道である登山道は本当に手入れが

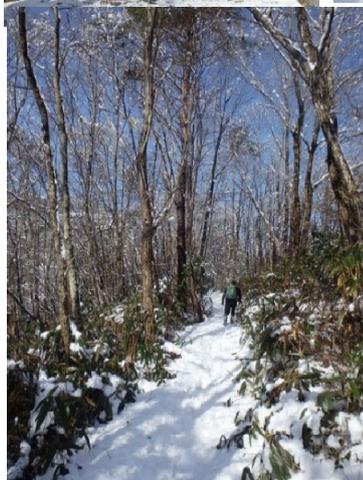
行き届いていて歩きやすく感謝あるのみ。

帰路は、車を回してある間明沢へ下るため途中分岐で往路と別の道をとったが、こちらの道も同じく、とても歩きやすい道だった。感謝。雪の道をサクサクと下り、途中にあった出来立てのような新しい東屋でしばし休憩。

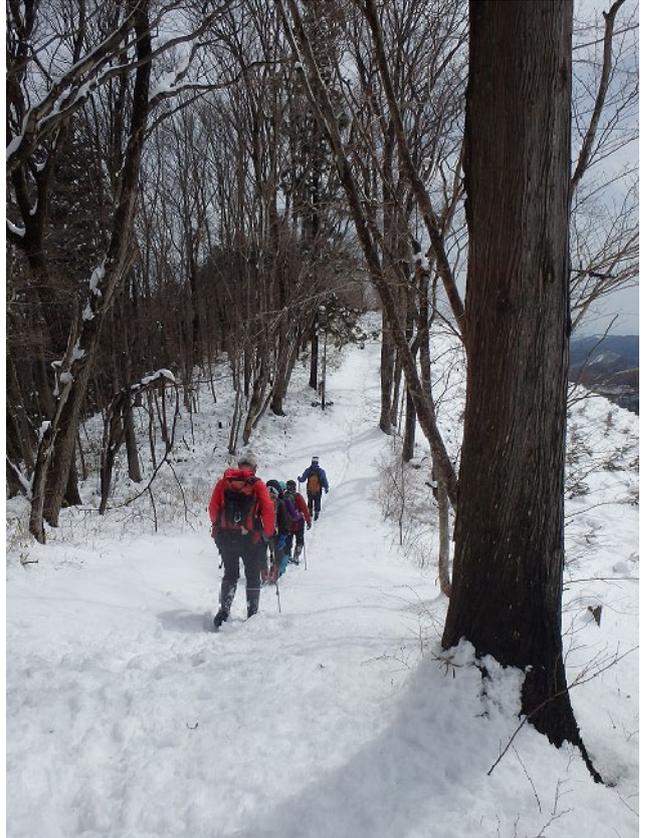
11:43 「明神里山」と書かれた立派な看板のある、間明沢登山口に到着!

3時間半ほどの山歩きでしたが、「いわきではなかなか見られない雪山景色」のおまけ付きの楽しい山歩きでした。そして無雪期にも来てみたいと思います。

(文責・栗崎容子)







## 雲河曾根山をめざして、現燈山手前まで

2020年4月6日～7日(月、火)

参加者 秋葉、栗崎(透)、栗崎(容) 計3名

4/6月曜日、この日は沼沢湖外輪山の高森山に登る予定で、いわきを7:00に出発したが、あいにくの雨。

天気を持ちそうな天栄村の、登山道の無い天栄山に向かうもこちらは雪がざんざん降っていて、周りは綺麗な雪景色に変わる。

おとなしく、明日の登山口の只見の金山に向かう。途中、会津坂下町の道の駅で今晚と明日の食料を調達して、そのあと鶴の湯でマッタリする。

金山の道の駅で明日の天気を祈願して、ちょっと早い夕方四時ごろから、天気祭りに突入した。

4/7火曜日、今日の行程は長いので、四時に起きて仕度をする。

天気祭りのおかげでいい天気になりそうだ。

5:30 登山口の熊野神社に車を止めて歩き出す。

足元は、栗崎二人は登山靴、軽アイゼンを携帯。秋葉さんはスパイク長靴。三人とも念のためスノーシューも背負う。

標高350から歩き始める。

すぐに、山道の無い尾根に取り付く。

雪どけすぐの斜面は、藪樁などが寝かされていて、なかなか大変な藪漕ぎから始まった。

6:30 標高600の主稜線に乗ったところで朝食にする。

標高687のピークからの下りに、栗崎二人は軽アイゼンを装着する。ずっとなかなかの藪漕ぎだ。

雪と藪の急登の細尾根をたどると、最大の難所が現れた。

今回は秋葉、下山田、渡辺の三氏はこの難所をクリアできずにここで敗退したそう。

今回は雪も少ないので、まず、秋葉さんが細尾根にある大きな木のえぐれた根っこを通過しようとした。が、次の瞬間、その根っこの上から「あー」と声とともに左の急斜面を落ちていった。

「止めろ」「掴まれ」と二人で叫ぶが、秋葉さんはなかなか止まらない。すごく長い時間を感じたころ、止まった。

「秋葉さん？」

「生きてるよ」

「折れてる？」

「大丈夫」

「出血は？」

「ないよー」

とても登り返せるような斜面では無いので、ロープを出す。

藪が多いので、ロープを投げて秋葉さんには届かない。

ロープを使って降りていき、秋葉さんの5メートル上からロープの末端を投げる。

「少しフラつくから、上で確保して」

ロープをごぼうで登り、ロープを引き上げると10mも引かないうちにテンションがかかる。30mのロープだから20m以上は滑落したようだ。目の前の大木に足をかけて腰がらみで引き上げた。

その場で、身体の確認をして、少し休んだ。

ここから引き返すことにしたが、また細尾根の急下り。

フラつく秋葉さんをローワーダウンして、そのロープで容子はクライムダウン、その後秋葉さんのビレイをはずしてもらい、ダブルロープで肩がらみで降りてロープを回収した。

この後も、フラつき、転ぶ秋葉さんの後ろに容子がぴったり付いてフォローして、私は先頭で藪漕ぎをする。

本当なら、ショートロープで確保しながら降りるべきであったと、反省している。

11:30 登山口までたどり着く。

秋葉さんだからここまで歩けたんだろうと思う。

さすがに、強い。

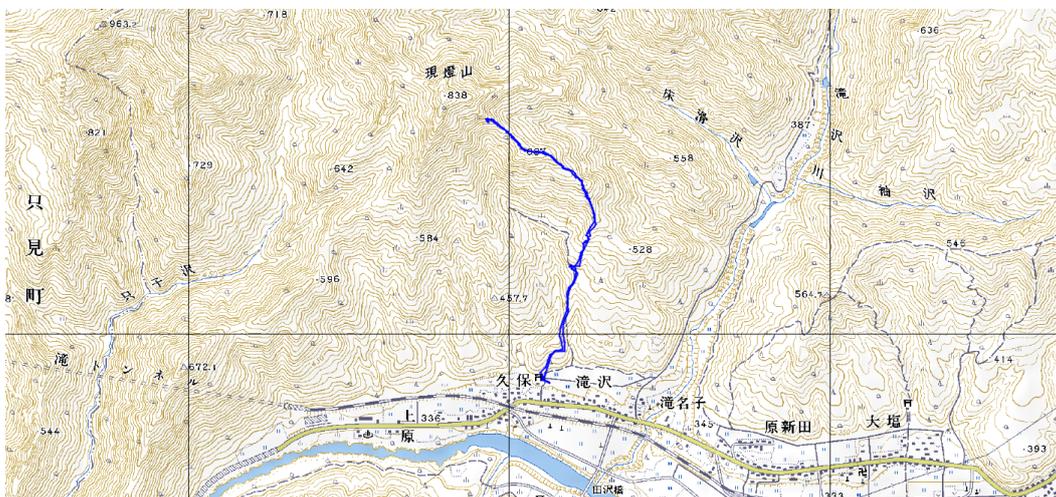
滑落してからの秋葉さんが感じたことや、入院、退院、山復帰などの経過は本人が報告するということなので、それを待ちたい。

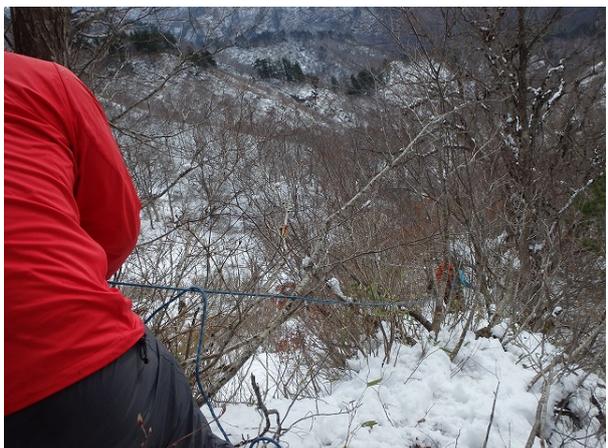
雪の山行時は、ほとんど秋葉さんがロープを携行するが、今回は持ってきてなかった。

登山口で「ロープ持ってきましたから携行しますか？」と聞いたら「持ってきたなら携行すれば」と。

一度は車に置いていこうかと思ったが、最後にザックに突っ込んだ。これが無かったら相当難儀しただろう。

引き上げるのも、引き上げられるのも、日頃のロープワークを練習していないとままならないということを実感した山行となった。それと、常に携行する個人装備のスリング、カラビナを忘れずに!!  
(文責 栗崎透)





# 山行報告 現燈山滑落

2020年4月7日、秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子

## 危ないと分かっている所でスリップ

今回の一番の難所、急な痩せ尾根に松の巨木が「通せんぼ」をしている。前々回はここに巨大な雪塊が邪魔しどうしても乗り越えられなく撤退。前回は雪が無かったので回り込んで何とか通過した。今回はスパイク付き長靴、雪塊は無いものの、薄く雪が被っているので、手がかりになるスリングを付ける必要がある。

ザックを下ろし、ストックをしまいスリングとカラビナを肩に掛ける。松の木を回り込み、スリングを付けようとするが適当なところがないので、もう少し回り込もうと一歩踏み出したとたんにスリップ。

木にぶっつかったり回転したり、これで俺も終わりかと一瞬頭をよぎるが何とか止まった。四つん這いになり登り返すが再びスリップ、枝に掴まりかろうじてストップ、少しでも動けば200m下の谷まで滑落するだろう。一歩も動けない。

## バランスが取れない、ダブって見える

栗崎さんが上から声を掛けてロープを下ろしてくれた。ロープの末端にエイトリングを作り、環付きカラビナでシートベルトで腰に結んだスリングに固定する。スリングを肩に掛けておいたのがラッキー、ザックに入れたままであったら、ザックを下ろす場所もないし大変なことになっていたことだろう。

確保してもらい登り返すが何度かスリップする。やっと尾根にたどり着き、腰を下ろししばし休む。尻餅をつきながら

身体はあちこち痛いけどどうやら骨折等はしていないようだ。意識障害等の症状もないので何とか動けるだろう。今回はここまでとして、下山することにした。

急斜面の1ピッチ確保してもらった。後はストックと藪に掴まりながらの下山となる。おそらく頭を打ったのであろう？ バランスが取れない、左の視野がおかしい、左側がダブって見える、重心が右後ろに来て思うように前に進めない。栗崎さんの先導と容子さんに後ろについて貰って何回も尻餅をつきながらやっと登山口に着く。

ザックに腰を下ろし靴を履き替えようとするがバランスが取れず座ってられない。仕方がないので地べたに腰を下ろし履き替える。

どうか一時的なものであって欲しい。車の中でひと眠りすれば回復するかなと思ったが同じであった。右側は良いのだが道路の左側の縁石が2本に見える。たまには道路も2本に見える。

集合場所の水石トンネル駐車場に着いたが、運転ができないので容子さんに運転、栗崎さんに家まで送ってもらった。栗崎さん夫妻は命の恩人だ..ありがとうございました。

## 一週間の安静・経過観察

幸い妻が家にいたので、石井脳神経外科・眼科を受診。CTは異常なし、おそらく身体が回転した時に脳がついていけずに捻じれたような状態になったのであろう。1週間の安静と経過観察、アルコール禁止、運転禁止、ビタミン剤を処方されて帰宅。バランスがとれず何かに掴まらなないと歩けない。その晩は息子が心配して脇に寝てくれた。

一週間後の4月13日、受診。悪くはなっていないが良くもなっていない。MRIを撮ると左側の脳幹部にほんの少し白くなっているところがある。出血や梗塞ではないので良くなるが時間はかかる。

それとも入院して治療しますかと言われた。早く遊びたいのですぐに入院することにした。

初めての入院、山に行きたくてウズウズ

70年の人生初めての入院。病名は「び慢性脳幹部軸索損傷」、8日間の入院でMRIも正常に戻り、手すりなしで階段昇降も可、目のダブリもかなり改善し、車の運転のOKも出た。しかし、アルコール禁止<sup>④</sup>。

点滴と注射だけで何もすることがないので、前に読んでもう一度読みたいと思っていた本「こぼれ種」青木玉・新潮文庫と「木を知る・木に学ぶ」石井誠治・ヤマケイ新書を図鑑で確認しながら2回熟読。山に行きたくてウズウズしてきた。

(文責：秋葉)

# 永崎の海を見はるかす館山

2020年4月24日(金) 太

感染症のまん延に伴う緊急事態で山行は自粛。自宅近くを散歩して永崎「館山」に登った。

午前5時に自宅を出て永崎方面に向かって歩く。日が昇り切っておらず、薄曇りの天気もあり、肌寒い。

バス停「江名中前」から坂を登り、江名中学校(永崎字館1番地)敷地に入る。学校は、館山を削った台地にあり、校庭側の館山は、もともと掘削法面、非常に急峻な崖になっている。登ろうと校舎裏にまわったが、敷地フェンスで敷地外、山の方には行けなくなっていた。

なんとか外に出ると、登り口がすっかり藪で覆われていた。かき分け進むと、かすかな道跡が残っており、蔓や茨を避けながら登っていく。ほどなく最高地点と思われる場所に到着。地理院地図サイトによると標高62mらしい。樹木が茂って展望はない。少し先の展望地点に進む。

展望地点は、校庭に面する崖の上部。足下に中学校。その先に町並みと小学校、永崎海岸。その向こうに海に突き出た三崎の丘、そこに立つマリンタワーが見えた。遠く少しかすんで見えるのが県境の岬かもしれない。中学校の校歌の歌い出しは、「紺碧の永崎の海、みはるかす館山の…」だが、曇空の下、あいにく海は鉛色だった。

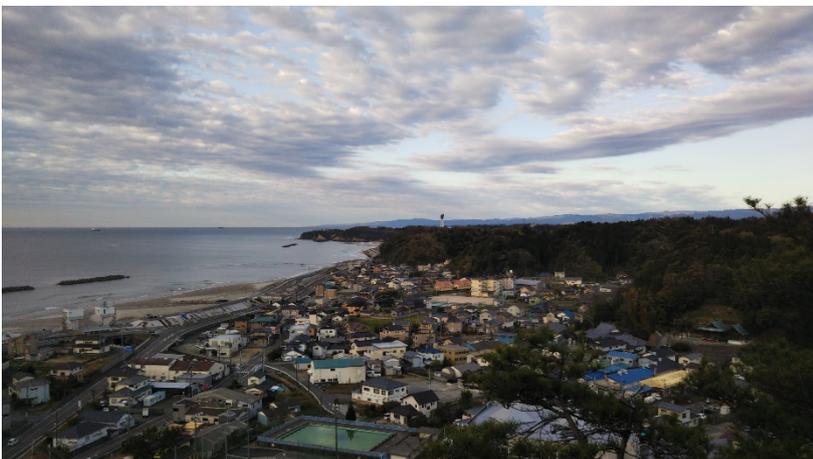
しばし眺めたあと、登ったルートの反対側、野球部バックネット裏に下り、海岸の散歩に戻った。

## タイム

5:40 バス停→5:45 校舎裏→5:55 最高地点→6:00 展望地点→6:05 校庭→6:10 バス停



江名中学校と館山



館山からの眺め

# 江名の港を見守る中田山

2020年4月25日（土） 太

江名町の三角山公園まで散歩する途中、地元で中田山と呼ぶ山に寄った。

午前5時に自宅を出て、南・北中之作トンネルを抜け江名町に歩いて入る。真福寺前のバス停「江名小入口」から、海側へゆるい坂を上り切通しを抜けると、江之浦の町を見下ろす坂の上に出る。ここを左に登っていくと中田山。道は狭いが車で登ることもできる。所在地は江名字風越で、田畑もないのに何故か「中田山」。かつて市長だった中田武雄は江名町出身だから、住民の名前に由来するものかも知れない。

山頂（最高点は約 50m）近くには広場があって、その奥に立派な慰霊塔が建つ。傍らの廃屋は、北洋漁業が盛んな頃まで置かれていた漁業無線基地局の建物。慰霊塔の脇の樹林を抜けると江名港を見下ろす断崖で、眼下に入江を守る防波堤、遠く広がる太平洋を望むことができる。

登った道に戻り、中田山と港を挟んで反対側の小高い丘、三角山公園へ行く。ももとの三角山は、高さ 40m以上の、ほぼ正三角錐の美しい姿だったが、崩壊の危険もあって、上部がカットされ、公園になった経緯がある。地理院地図サイトでは、元の高さで等高線が描かれているが、標高データは現状の 17m前後になっているようだ。

三角山公園に登ると、町と港のほぼ全容を見渡すことができる。港に迫りながらも、包み込むようにそびえる中田山の姿を目の前に見ることができる。

## タイム

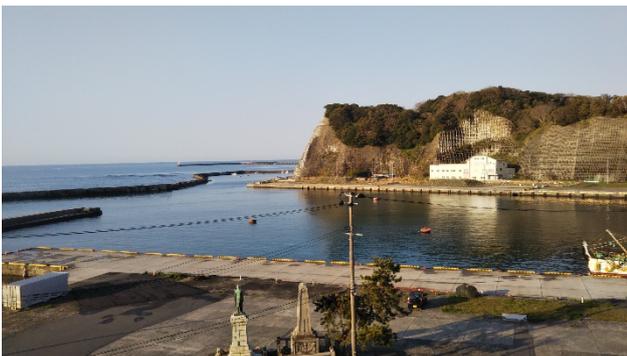
5：40 江名小入口バス停→5：50 慰霊塔（山頂広場）→5：55 江名小入口バス停→6：05 三角山公園→6：15 江名小入口バス停



右下の崖が中田山。上部中央の鳥居付近が三角山



中田山の山頂付近にある慰霊塔



中田山から見た江名港



海に向かってそびえる中田山。

# 磐城三十三観音札所と4等三角点の高照山

2020年4月29日 太

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う非常事態宣言により山行は自粛。自宅から徒歩で行ける旧跡の散策で、磐城三十三観音第17番（十一面観世音菩薩）札所の高照山観音堂、高照山に登った。

午前5時に自宅を出て神白温泉方面に向かって歩く。温泉（鉱泉）旅館の少し先に磐城国造神社があり、その前の坂を上って峠を越えると鹿島町久保の金光寺前が出る。この道は、その昔に永崎周辺で作られた塩を内陸に運ぶルート「塩の道」。金光寺は、第16番（聖観世音菩薩）札所だが、観音堂奥の古墳時代の横穴や、鹿島街道脇の崩落現場にあった市指定文化財の磨崖仏の関係でも知られている。市立鹿島公民館まで歩くと、敷地内には七本松。坂上田村麻呂に関わる史蹟で、周辺は戊辰戦争の古戦場である。

鹿島小学校、かしま幼稚園を過ぎた先に、走熊川に架かる小さな橋、山ノ神橋がある。その付近に高照山へ登る道があり、「高照山十一面観音」と刻まれた石柱が立っている。

本当はそこから登るはずだったが、草木で隠れた石柱を見落とし、その先の民家周辺から尾根に取り付き、地形を頼りに、樹林の中を登った。幸いにも踏み跡らしきものがあり、比較的楽に登れた。登り切ると、小さな三角点（4等）があったものの、周囲の木々で展望はなかった。

三角点から少し下ると観音堂があり、下山は参道を通して山ノ神橋まで戻った。

## タイム

6:20 山ノ神橋→6:25 民家畑→6:45 高照山（三角点）→6:50 観音堂→7:10 山ノ神橋



△123.8が高照山。右の赤い●は配水池。



ガードレールは山ノ神橋。電柱奥が登り口。



三角点「四等」の文字が読める



樹林に囲まれた高照山観音堂